

報告事項 4 ひだまる山之村線の貨客混載実証実験について

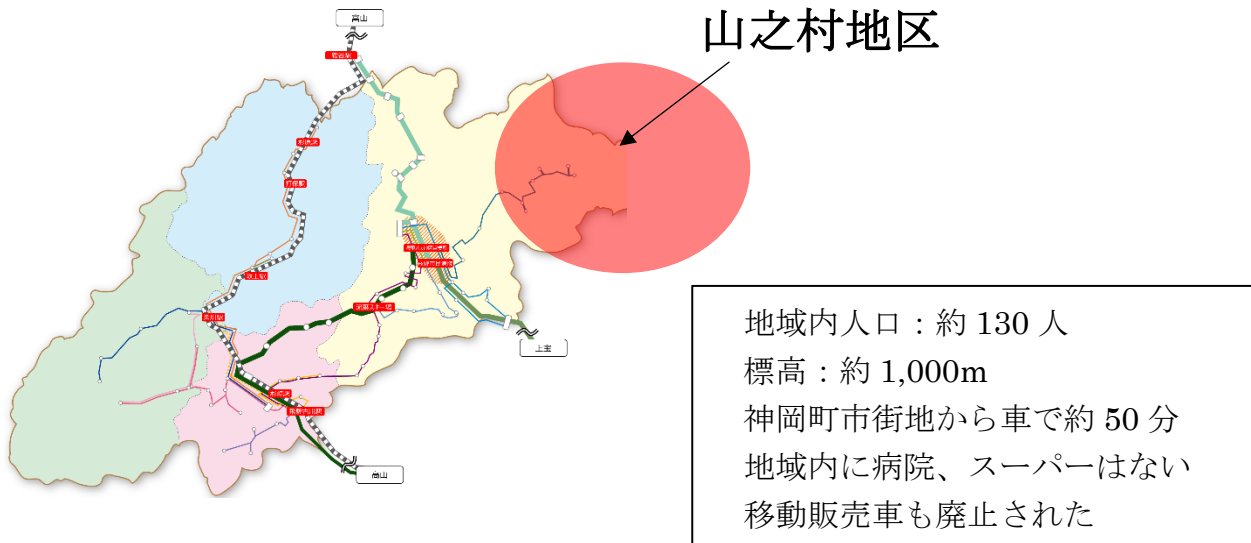
1. 事業背景・目的

市では、高齢者等の買い物弱者対策の一つとして移動販売事業者の支援を行い、自宅にしながら日用品や食品等の買い物ができる環境整備に取り組んできました。その結果、公共交通網が脆弱な地域では移動販売は欠かせない買い物手段となり、とりわけ市街地から遠い山之村地区では大きく寄与していました。

しかし、令和3年に当地区への移動販売を行っていた民間事業者が対応できなくなったため、代替の買物手段について調査を行ったところ、多くの家庭において生活協同組合コープぎふを利用していることがわかりました。コープぎふは神岡町市街地まで商品を配達し、配送委託契約をしている地域住民（以下、サポーターという。）が市街地まで商品を取りに行き、地区に戻って各家庭へ配達を行っていますが、その方の負担が大きく、今後の継続性に不安もありました。

このことから、公共交通制度の緩和で国でも推奨している貨客混載に着目し、市、コープぎふ、濃飛バス、地域住民の連携により公共交通網を活用した貨客混載による商品輸送を検証的に実施しながら、課題等をクリアにし、本格実施に向けて取り組みます。

また、この民間事業者との協働によるこの貨客混載の取組が本格実施に至れば、他の買い物困難地域へも展開ができないか合わせて検討していきます。

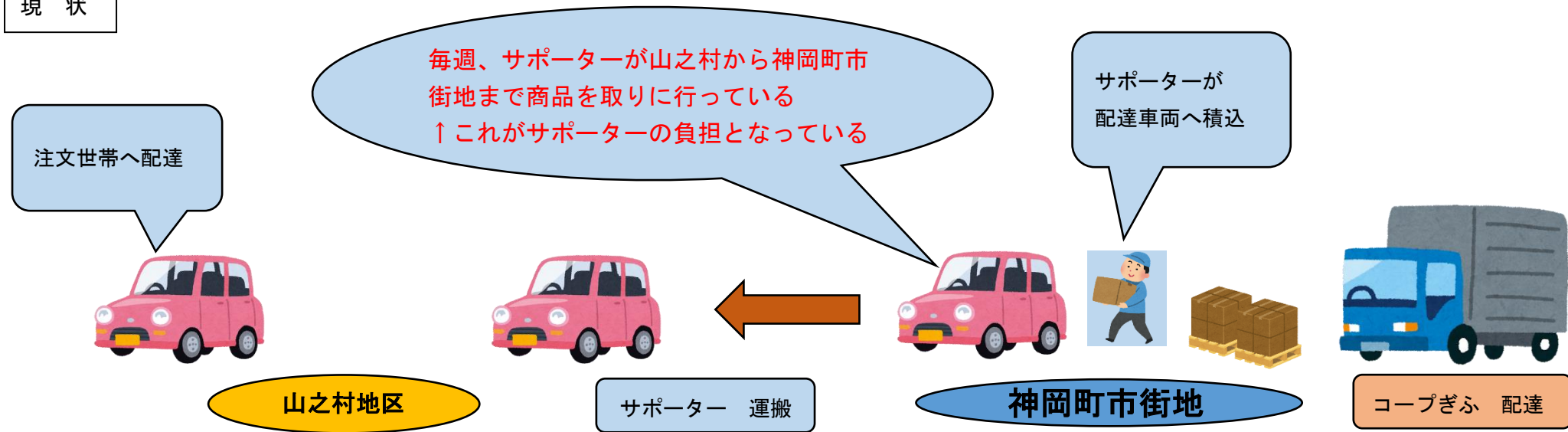


2. これまでの経緯とこれからの予定

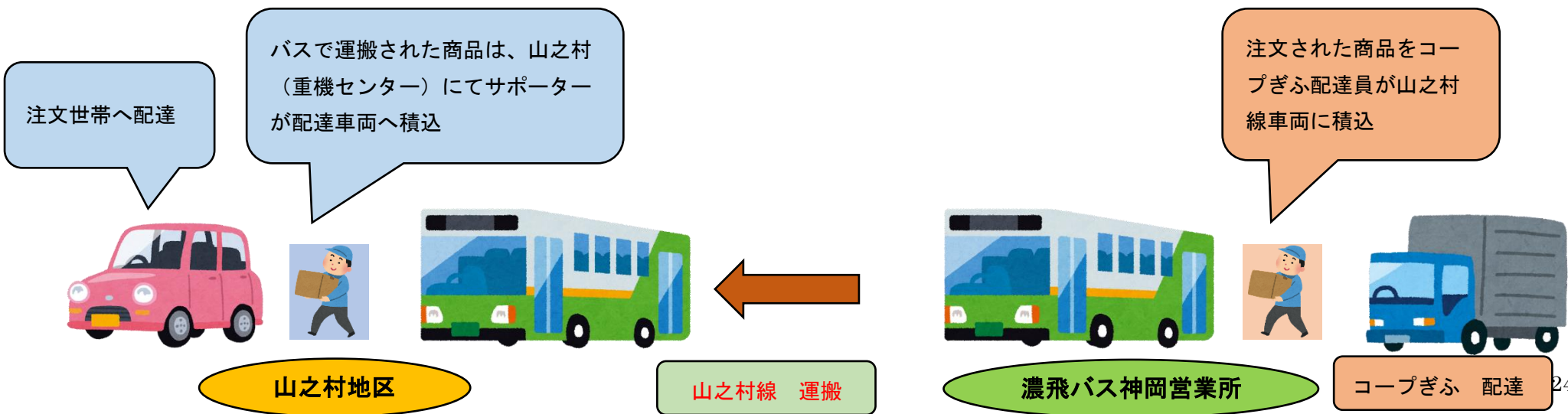
	内 容
令和3年11月	コープぎふ、濃飛バスとの個別協議
令和3年12月	ひだまる山之村線車両の積込テスト
令和4年 3月	積み下ろし場所現場確認
令和4年 5月	テスト運行実施
令和4年 9月	貨客混載実証実験開始（予定）

ひだまる山之村線 貨客混載のイメージ

現 状



貨客混載



積込テスト
(濃飛バス
神岡営業所
にて)



積込の様子
(実際のそ
の週に運搬
する商品を
積込)



積込完了



サポーター
の配達車両
への積込
(山之村に
て)

